

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702685		
法人名	株)プロデュース		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11-27		
自己評価作成日	平成22年10月28日	評価結果確定日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kai/gosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kai/gosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛・成長・謙虚と感謝で地域貢献」と経営理念を掲げ1日1日その瞬間を大切に頑張っています。認知症高齢者が私たちと何ら変わらない生活を送れる様毎日支援させていただき残された短い人生を毎日笑って暮らし、息を引き取る寸前まで普段の生活の声・音・匂い・空気を感じて頂けるよう価値の高い専門職を目指し日々努力しております。職員同士の仲が良く「ありがとう」メッセージを送り合いチームワークがあり愛のあふれたホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、職員や入居者が家族であるかのようにホームの運営を行っているが、今年は権限の委譲をテーマとして、職員とミーティングや運営に関わっている。職員は期待に応えたいとお互いの長所を活かしながら、入居者の自発的な外出支援や、夏祭りの出店や餅つきなど地元住民とのシームレスな関係の構築で、理念の具現化に取り組んでいる。一階事務所は立ち寄りやすい雰囲気、地域の住民や、入居者の交流の場になっている。今年は、近隣の学童保育の卒業式に、入居者と参加し、卒業の感涙を流し、一緒に感慨にふけることが出来た。商業地域に立地することを強みにした異職種交流を、今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム きらめき 2F**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「グループホームきらめきは、喜んで楽しんで明るく快適な生活を送れるホームをめざします」 経営理念「愛・成長・謙虚と感謝で地域貢献」	午前9時、職員と入居者がホーム理念を唱和し、笑顔で一日をスタートしている。代表は理念を「行動の物差し」として大切にしており、職員とともに理念を共有し、深く追求していきたいと理念委員会を設置している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから地域の市場に買物に行きコミュニケーションをとっている。 地域の夏祭りや保育園・学童保育のイベントに参加させて貰っている。	本城夏祭りにカレー屋を出店し、家族と参加したり、恒例となった餅つきでは、同じビルの方や地域の方、入居者が阿吽の呼吸が取れるようになった。入居者と学童保育の卒園式に参加し、感動の涙を流した。ボランティアの来訪も多く、ハンドマッサージなどを受けている。管理者は「年に1500人ボランティア計画」で、地域との交流を図りたいと考えている。	地域の民生委員との関わり、地域高齢者の困りごとの相談を受ける等、更なる地域と交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者が事務所に介護の相談に来所されたり利用者様と散歩中地域の高齢者とコミュニケーションをとり施設での生活等話す機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年3月4月7月8月9月11月(12月予定)と開催し学童保育の先生や地域の業者・住民・家族会の意見等を聴き改善出来る所から取り組んでいる。	運営推進会議を情報交換の機会ととらえ、市の職員、町内会長、地域住民、利用者・家族参加で開催している。会議の関わりから自発的な家族会が発足し、家族会での意見を会議で報告している。	参加者の守秘義務規定などを明記した運営推進会議実施要綱を整備して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修参加やケースワーカーと面会や情報交換を行っている。運営推進会議の際必ず包括支援センターに案内を出している。権利擁護を利用勧め現在利用中。月に2回相談員が訪問している。	月2回、介護相談員の訪問を受け入れ、入居者の率直な意見や日常の表情を見てもらい、課題解決に努めている。役所に出向いた際には担当窓口やケースワーカーに声をかけるようにし、情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠で日中は解放している。日ごろから言葉の拘束や身体拘束について声かけし利用者本意で自由に暮らせるよう援助している。毎月ミーティングでも再確認している。外出が不可能な時でも隣接された事務所までお散歩がてら来ていただき雑談の場を創っている。	身体拘束防止マニュアル・パンフレットを整備している。身体拘束の弊害について職員が理解や実践ができるように、代表や管理者は日頃から周知徹底を図っている。入居者の行動を全職員がさりげなく合図を送りながら危険がないよう、見守っている姿が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に意識してホーム内で見過ごす事が無いようスタッフに声かけしている。気になった事は即伝えている。声かけし一つ一つ注意し合いミーティングでも再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用し毎月関わらせて頂いている。利用されている方も毎月来客の意識が有り楽しみにされている。	今年に入り、日常生活自立支援事業を活用するようになった入居者もある。成年後見制度はパンフレットの整備しているが、現在利用する入居者がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明し契約を行っている。その際センター方式を利用し過去の生活状況を十分聞き取りし意見や要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が有り会で意見をもまとめて報告を頂き改善出来るところから改善している。御家族側から率先し家族会を開催してくれた。改善提案もさることながら家族同士の繋がりは非常に強いです。	夏祭りや餅つきなど家族が参加する行事も多く、行事後に自由参加の酒宴を開催するなど、家族が意見や不安を表出する機会を設けている。また、自発的に発会した家族会で出た質問や疑問を、運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や報告書などで提案を聴き改善の必要性の有る所から改善している。アンケート調査を実施したことで職員の率直な意見が聞けた。	代表は個別面談やアンケートで、職員の意見や不満、希望を聴くように努めている。職員から「入居者と一緒に同じものを食べてはどうか」との意見で、食事を一緒に楽しむようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年の年度方針や目標をはっきり伝え権限移譲と責任と意思決定を伝え取り組んでいる。人事考課制度を取り入れ各職員が目標を持って働けるよう取り組んでいる。OJT・OFF JTを使用しキャリアアップを目指している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代～60代年齢層も幅広く男女問わず職員がおり個々の能力を発揮しお互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる。職員同士の良いところに着目し個人の強みを伸ばしながら勤務できるよう協力しあっている。	職務規定、就業規則、育児介護休業規程が整備され、今年9月にも1ヶ月の介護休暇を取得し、現場に復帰した職員がいる。職員は休憩室で昼休みにとっている。また、研修参加を促進し、パート職員も同様に希望する研修に参加している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	学んだ事を生かし職員に面談時伝えている。実際に弊社職員は徹底して人権尊重できている。	高齢者虐待防止マニュアルが整備されているが、今年是人権研修に参加していない。	年間研修計画に組み込み、地域で開催される人権研修などに参加していただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(理念と経営)(読書と要約)や職員の能力に合わせ社外研修で学んできた事を他職員に報告しお互い学んでいる。 キャリアプランを作成中		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徘徊ネットワーク会員、グループホーム経営者や管理者と情報交換をしている。 今後他社のグループホーム職員を集めての勉強会を行っていきたい。 経営革新認定を受けた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聞き安心出来るよう努めている。 センター方式を十分活用している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聞き安心出来るよう努めている。 センター方式を活用。 特に初期段階では御家族とのコミュニケーションを多く持つように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聞き安心出来るよう努めている。 本人・家族の状況に合わせ支援している。 センター方式活用。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を日々気付き協力して頂いている。 必ず感謝の気持ちと出来た事の喜びを共感し自信を持てるよう支援している。 相手が悲しんでおられるときは一緒に悲しみ怒っている時は一緒に怒り喜びは一緒に喜べる関係を目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を報告・相談しよりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。 御家族が来られた時は家族水入らずの時間も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も自宅の御近所の方やお友達が気軽に面会に来られている。その際一緒に食事をしていただいたり今までの関係が途切れないようにまた来やすい雰囲気作りを心掛けている。	社交ダンスをしていた頃のダンスパートナーが遊びに来たり、友人の訪問は多い。公民館の館長をしていた入居者と公民館に通い、「館長さん」と呼ばれるときの嬉しそうな顔を見るのがまた嬉しいと職員は話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来し御利用者様同士で話をされていたりそっと手を握りスキンシップをとっている光景を見かける。他の利用者の居室で井戸端会議などほほえましい光景あり。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様もイベントの時やそれ以外でも遊びに来れり遊びに行ったりと関係は続いている。毎年餅つき家族会に参加してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様本人の意向は必ずお聴きしている。困難な場合は家族に情報を頂き相談し御本人の望まれるであろう生活に近づけている。「必ず洗濯物は自分の居室に干したい」「晩酌がしたい」「タバコが吸いたい」などの要望には応えている。	センター方式アセスメントシートを活用し、晩酌やポートルースの見物など入居者の生活暦を把握している。各職員がファイルを所持し、いつでも生活暦やケアプランを振り返るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際御家族に生活歴を記入して頂き情報を収集している。センター方式活用。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりの無い方は3ヶ月に1度カンファレンスを行い計画に反映している。介護職員がカンファレンスの際細かく意見を出す仕組み作りをしている。ユニット内MT→全体MT→ケアプラン作成と3段階に分けチームで計画を作っている。	定期的なモニタリングが実施され、全職員がカンファレンスに参加し、日々のケアの中での気づきを計画に反映できる仕組みができています。99歳の入居者のトイレ誘導を介護職員の提案で2時間間隔から1.5時間間隔に変更したことで排尿がうまくいった事例もある。	入居者の意向に沿った介護計画を掘り下げていく為に、更新時などを活用し、家族の担当者会議の参加をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御家族へ状況変化は書面や電話で報告し相談の後計画に反映させケアを行っている。 御家族に記録を見て貰う様勧めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の御家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。 例えば御主人が入院や体調不良で面会に出来ない時などこちらからお連れしゆっくりと時間を過ごして貰う等。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に商店が多くあり散歩の途中に寄り寄り買物に行く事も有りホームのお元気な方の顔は覚えて下さっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により毎週往診に来ていただき健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示・協力を受けている。	なるべく家族に受診の同行をお願いしているが、眼科や皮膚科の受診に職員が同行することもある。現在透析を受けている入居者もあり、「連絡ノート」で病院と連携をとっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3日看護師が来て健康チェックし把握できている。 変化の有る方は申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活情報を提供し病状安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年初めてホームでの看取りを経験しましたが御家族と密に情報交換し状態変化有る時はその都度意向を確認し満足して頂ける終末期を迎えられた。 痰の吸引等介護職員ではできない新たな課題が持ち上がった。	入居時や身体状況の変化時に、重度化した場合や終末期について話し合いを行っている。今年、主治医と密接に連絡を取り合いながら、看取りを経験している。「穏やかな終末期を迎えられた」との家族の言葉に自信を得るとともに、新たな医療連携体制の必要性の気づきもあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 今回AEDを購入し研修を行う。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防の方指導いただき火災訓練を行っている。 地域に消防団の方が住んであり訓練も参加してもらっている。 将来は消防演習も行っていきたい。	一階オフィスの従業員とホーム職員が消防団に入っているため、こころ強い。管理者は、地元住民と消防演習を行い、火災予防の啓発に役立たいと考えている。AEDを設置し、研修会も行っている。	非常災害時に備えての、食品や消耗品の備蓄をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせ声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	職員は入居者個々の習慣を理解しており、理解力の低下した入居者にもホーム内で自由に過ごせるよう、少し離れて見守っている。援助が必要な時も本人を傷つけないよう配慮したやさしい声かけで促している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が選びやすいよう二者択一の声かけを行い行動などでシグナルを見落とさない様努めている。 おやつ時飲み物や行事の参加や外出も自己決定出来るよう声かけしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方廊下ソファーでおしゃべりしたい方など個々その時の状態に合わせて自由に快適に過ごせるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に合わせて行っている。 外出時や入浴時洋服と一緒に選び着るものを決めている。 理美容室に行きパーマやカラーをされる支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいもの等有る時は献立に反映している。 個々のその時の状況に合わせて出来る事を共に行っている。 時折外食しその時食べたいものを食べていただいている。	お好み焼きや稲荷すしなど、希望のメニューを日曜日に取り入れるようにしている。海が見える展望レストランで、気分転換もかねて外食をしたりしている。食後、下膳を手伝う入居者の姿が見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックし状態を把握し対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難な時は歯科医の協力を得ている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレで排泄が出来るよう援助している。	排せつの習慣やパターンを把握し、プライドを傷つけないよう、さりげない声かけでトイレへ誘導している。チェック表を利用した排せつの支援でパットがいなくなった事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のヨーグルトや麦ご飯等工夫し自然排便が出来るよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変希望有る時は対応している。	週に2回は入浴するように支援している。1日3~4人がゆっくり入浴できる様に調整している。日曜日には、入居者全員に足浴を行っている。柚湯など季節浴を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方がある時は必ず申し送っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族の協力もあるが御本人の嗜好も考慮し支援している。 趣味であった競艇や地元の酒屋で角打ち・家族の希望で一泊旅行等対応できる事は行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常天気の良い日は散歩に出かけ気候が良くなると希望を聴き外出している。	日常的に一階の事務所に気軽に出かけている。家族の病気入院の前に一泊旅行がしたいと申し出があり、職員が付き添い、実現している。ホテルでの普段見せたことが無い生き生きとした表情に職員が驚かされたこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人と御家族の希望があれば可能である。 買物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人と御家族の希望があればいつでも電話できる体制はある。 毎日朝・昼娘さんと電話している方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭が無いし玄関が狭い為やリビング等に季節を感じられるような花や飾りをし工夫している。	玄関には、座って靴が着脱できるようにベンチがしつらえてある。2・3階に立地するホームのため、窓からの季節の演出は難しいが、季節の木々や花などで工夫したり、行事の写真や季節感のある折り紙などの飾り付けがされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを設置し自由に過ごせる空間が有る。 又気の合う御利用者様は居室を行き来し過ごしている事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や鏡台写真や仏壇等も持って来られ御本人が心地よく過ごせるよう努めている。	木製の引き戸や板壁が懐かしく、落ち着いた雰囲気がある居室はどの部屋にも大きな窓があり、自然の陽ざしが差し込んでいる。居室には家具や調度品が持ち込まれ、宿泊用のベッドを持ち込み、定期的に宿泊する家族もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。		